
The grass is always greener on the other side. 【ロックバイソン】

餛飩粉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【タイバニ】隣の芝生は青い / The grass is always greener on the other side .
【ロックバイソン】

【Nコード】

N4409Z

【作者名】

餛飩粉

【あらすじ】

【注意】タイバニのTVシリーズを最後まで観ていることが前提です。

ワイルドタイガーとバーナビー・ブルックスJr. がヒーローを引退し、復帰するまでの間に起こった出来事として書いております。

タイガーとバーナビーが引退しても、HERO TVは依然と

してシュテルンビルトの市民達から愛され続けている。

ヒーロー達は今日も明日も市民のために悪と戦い、平和を守り、互いに競い合っていた。

ただ一人、万年最下位に甘んじているロックバイソンを除いて……。

ある日、クロノスフーズのヒーロー事業部担当に「次はない」と宣告されたロックバイソン。果たしてヒーロー存続の危機に晒された彼はこの状況をどうやって切り抜けるのか？

結局本編ではスポットの当たった回がなく、そのおかげで大した活躍もしなかったロックバイソンが主役です。個人的に大好きなキヤラなので、彼が主役の話を自分で作ってしまおうと考えました。最後までどうか暖かい目で見守ってやってください。

プロローグ：HERO TV

封鎖された高架橋一帯で、ファイヤーエンブレムのカスタムカーが銀行強盗集団の乗った逃走車のバンを追いかけている。ハンドルを片手に、ファイヤーエンブレムはもう片方の手から火の玉を発生させ、タイヤを狙って打ちつける。しかし向こうは四車線使って蛇行しているため、なかなか当たらない。

「んもう！ 交通安全も守らないなんて！」

互いに制限速度を大幅に超えている。

そこにブルーローズの跨ったバイクが追いついてきた。決め台詞をカメラの前で披露していたため、随分と遅れを取っていたのだ。

シュテルンビルトの外周をなぞるように走っていた道は、街の中心へと向かう右曲がりのカーブに差し掛かった。ブルーローズはそれを確認すると急ブレーキをかけてバイクを止めた。バイクから降りると、右斜め前方　カーブした道路の内側に向かって勢いよく駆け、軽やかな跳躍で宙に舞った。真下に、シュテルンビルトの夜景が広がる。ブルーローズは落下が始まる前に右手を下から上へと振り上げた。瞬間、バイクのあった場所から細い氷の筋が伸びていく。ブルーローズはその細い氷の道に着地すると、右手の指先から氷を発生させ、道を作りながら滑っていく。カーブした道に弦を張ったようなショートカットを作り上げ、逃走車を追い越した。

ファイヤーエンブレムと挟み撃ちするような形になったのはいいが、ブルーローズが着地した地点には既にドラゴン・キッドと折紙サイクロンも待っていた。

「何よアンタ達、先回りしてたの？」

「これも作戦でござる！」

「トランスポーターだと追いつけないからって、言われたから」

言い合っている間に、逃走車がカーブの果てから顔を出した。ファイヤーエンブレムのカスタムカーもそのすぐ後ろに迫っている。

最初に動いたのは折紙サイクロンだ。背負った巨大な手裏剣を大きく振りかぶって投擲する。手裏剣は回転しながら斜めに弧を描き、逃走車の進行を遮る位置に突き刺さった。急停車するわけにもいかず、逃走車はギリギリまでハンドルを切ってそれをかわしたが、そのままスピンして道路の壁に衝突した。

操縦席側からのドアから慌てて二人の男が飛び出してくる。それぞれ片手に銃を持って左右に大きく振り回している。すぐにでも捕まえてやろうとヒーロー達が囲みにかかるが、後部座席から人質の女性を引き摺ったもう一人が出てきたのを見て動きを止めた。

「く、来んな！ こいつを撃つぞ！」

人質のこめかみに銃口を突きつけながら、その男は叫ぶ。

「車を持って来い！ 早くしろ！」

犯人三人と人質の女性は小さく固まったまま動こうとしない。三人は壊れたバンを背に、死角を作るまいとしきりに視線と銃口を左右に動かしている。

しかし、その膠着も長くは続かなかった。

犯人達の、唯一の死角から、もう一人のヒーローが降ってくる。

それに気づいた頃にはもう遅く、犯人達は局地的な突風に襲われた。攻撃と同時に空から急降下してきたスカイハイは、人質の女性だけをその腕に抱きかかえて再び飛翔する。

その頃、ロックバイソンもまた宙を飛びながら絶叫していた。しかし、彼が着地したのは封鎖された道路内であっても、現場から一キロ以上離れたところだった。

「くそ！ やっぱリトレーラーで直接行った方が良かったじゃねえか！」

頭から道路に突っ込みながらも、すぐに体勢を立て直して現場へと走り出す。だが、彼が着いたときには人質は救出され、犯人も全員確保されていた。

HERO TVのカメラは、最後に現れたロックバイソンを一秒

たりとも映すことなくヘリコプターと共に大空へと去っていった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4409z/>

【タイバニ】隣の芝生は青い/The grass is always greener on the other side.【

2011年12月15日02時50分発行